

令和元年度 第3回 会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 要旨

日時：令和元年12月18日（水）15：00～16：50

場所：会津若松市役所栄町第二庁舎1階第3会議室

1 開会（司会：観光商工部商工課 馬場主幹）

2 協議

- ・青木准教授が座長となり進行
- ・直近の話題等について情報交換した後、人材の育成・確保、地域企業間の技術・サービスの連携促進を目指した具体的な手法について議論

（発言要旨）

【直近の話題や今年度のこれまでの動きなどについて】

（台風19号による被害）

- ・本市企業は、台風19号の直接的な被害はそれほど受けなかったものの、取引先が影響を受けた企業も少なくない。取引先の影響で売上が減少し、資金繰りにも影響がある場合がある。
- ・国も今般の災害を受け、持続化補助金の枠が拡大されているようだ。中通りではグループでの補助金申請も多いと聞く。
- ・商工会議所、商工会管内でも被害を受けている事業所があるため、各種制度を活用しながら、支援に努めたい。

（支援状況）

- ・少子高齢化により、事業者からの支援ニーズの変化が見られる。税務関連の支援はこれまで行ってきたが、より経営に関わる部分（事業計画の策定や資金繰り）に関する相談が増えてきている。また、こういった部分を積極的にやっていないといけないと思う。
- ・事業承継の問題も深刻だが、個人的な問題でもあることから相談しにくい人も多い。

（外国人材の活用）

- ・人手不足に悩んでいる事業者は多く、外国人材活用を目指した動きが活発化している。異業種の事業者が連携して管理組合を設立した。主にベトナム人を対象としているようだ。外国人材が増加すれば、地域との交流は否応なく増えていく。外国人材と地域の交流機会をどのように創出していくかも重要である。
- ・当該組合がベトナム人をターゲットとしているのは、ベトナムの国民性が勤勉で、国民性や文化が日本人と似通っているためである。

（会津大学との交流）

- ・会津大学生と民間の交流がないと、結果的にその技術がどこにどのように使われているのかのイメージがつきにくく、人が必要としている技術かどうか確信が持てないのではないか。
- ・科学技術と商人のスキルが合わされば、起業も活発化するのだろうけど。
- ・経営者と会津大生が接点を持てるような機会や場があればいいのだが。大学や高校の講義・授業に企業者が出向くという形も考えられる。
- ・市役所と会津大学との人事交流があれば、今よりも風通しが良くなるかも。

(キャッシュレスの状況)

- ・換金がより早く行われる決済方法もあり、キャッシュレス対応をはじめた事業者が増えている。一方で、高齢の事業者においては、キャッシュレスに対応していないところも依然多い。

(企業家教育の重要性)

- ・事業者のみならず、人口全体の高齢者割合が増えており、今後の地域として持続性・継続性を不安視する声もあり、良いビジネスモデルを考えていく必要があると感じている。
- ・良いビジネスモデルを地域でたくさん作り、商工業も農業も良くしていこうという姿勢が大事。単独ではなかなか考えつかないこともあるため、複数事業者の連携を促進するような仕組みや場があれば良いのだが。やる気のある人が一歩踏み出せるような支援策が求められる。
- ・人口減少で将来どうなるかわからないような地域こそ、企業家教育により不確実性や地域課題に挑戦していけるようなマインドを育てることが重要であると思う。安定を求める人ばかりでは、会津地域に定着しよう、戻って来ようという人はいなくなるのではないか。
- ・中小企業家同友会では、同友会大学のような経営者同士と一緒に学んでいく機会がある。

(未来会議の積極的広報の必要性)

- ・未来会議で何をやっているのか、市民の方々にもっと広報してはどうか。成功事例や取組内容が見えないと、会議メンバーのモチベーションもあがらないと思う。各々の時点でどんどん発信していったほうが良い。
- ・未来会議の前身の検討会によって提案され、施策となったチャレンジ企業応援補助金の交付決定事業の動向などをマスコミに流し、様々な機会をとらえて事業実施状況を広報することは、来年度に向けた補助金の広報にもなる。地域事業者が率先して補助金を取りにくるような、取りにくるための事業を考えるような流れを作る必要がある。

【人材の育成・確保、地域企業間の技術・サービスの連携促進について】

- ・会津短大生の卒業研究の一環でUターン・Iターン者の実態調査を行っているところであるが、実際にUターン・Iターン者の意見を聞く機会を持つことも必要ではないか。
- ・補助金があるから何かをやるという意識ではなく、自分の経験や地域の実情を踏まえて事業を考えて展開していければいいのだが。例えば、那須にあるショウゾウカフェは、経営者の思いと地域の特性を生かし、多くの人を呼び込んでいる。カフェから派生した小物店なども人気のようだ。
- ・地域の経済循環により、持続的な地域発展を図っていくことが大事だ。ショウゾウカフェのようなビジネスモデルをたくさん作り、発信していければ。こういった取組をしている人を招いて講演会を行い、新しい面白い取組を行えるような機運醸成を図っていければ。
- ・講演会など地域の経営者などが集まる機会の際に、交流の機会も設けることで、地域事業者の得意分野を組み合わせた事業を生み出すきっかけ(事業者同士の出会い)をつくることもできるのでは。
- ・継続的に、前向きな事業展開を行う機会と交流の場をつくりながら、具体的な事業創出を図っていく仕組みができれば最高だ。新しい事業は、ハイテクとハイテクの組み合わせのみならず、既に使い込んだもの同士を組み合わせても起こるものだと思う。すぐに成果は目に見えないかもしれないが。

- ・地域の特徴・特性を生かした面白いビジネスモデルがたくさんできれば、若年者も夢を持てるような地域になると思う。
- ・高校生をはじめ、地域の若年者に対する企業家教育は必要不可欠であると感じる。安定性を求める人ばかりになってしまうと、人口減少で今後どうなるかわからない地域に残る人たちもいなくなってしまうだろう。
- ・地域の若年者との意見交換など話をする機会を設けることは良い取組であり、地域事業者にも喜んで協力する人が多いと思う。
- ・地域の若年者との意見交換などを通じて、学生の方から地域の大人が気づかないような課題が提起されることも考えられる。企業家精神について教えてやるというスタンスではなく、意見交換しながら、学生にも様々な道があることを感じてもらえるような機会となれば良い。

令和元年度
会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 コアメンバー

所属・企業名		役職	氏名（敬称略）	備考	第3回 出欠
会津大学短期大学部 産業情報学科		准教授	青木 孝弘		出
中小・ 小規模 企業者	松浦商事 株式会社	代表取締役専務	松浦 健典	会津若松商工会議所 推薦	欠
	渡部電気工事店		渡部 由美子	あいづ商工会 推薦	欠
	株式会社 三義漆器店	代表取締役	曾根 佳弘	県中小企業家同友会 会津地区 推薦	出
	TAKLAM	代表	遠藤 和輝	公益財団法人 会津青年会議所 推薦	欠
支援 機関	会津若松商工会議所	中小企業相談所長	長谷川 剛	代理 企業振興課長補佐 築取 幸弘	出 (代理)
	あいづ商工会	事務局長	福島 正博		出
	福島県中小企業団体中央会 会津事務所	専門指導員	江川 佳伸		出
	会津信用金庫	本店営業部長	渡部 勝敏		出
	会津商工信用組合	営業統括部部长	武田 義幸		出
会津若松市観光商工部商工課		課長	長谷川 陽一		出